

(2) 地域の“水文化”を知る

次に、当該地域の水文化を洗い出します。水文化は、有形・無形、有名・無名など様々ですが、これらを分け隔てなく洗い出します。そして、水文化が地域に与える影響と、水文化の形成・衰退を調べます。

こうして把握された地域の水文化の実態は、(1)で調査した水循環や、地域社会の性格と密接な関わりがあることがわかります。このように、水文化を理解することを通じて、当該地域の特徴や歴史・変遷をあらためて見直していきます。

水文化を洗い出す

水文化は、表1に示したように多岐にわたっており、有形もの、無形なもの、有名なもの、無名なものなどが混在しています。そこで、当該地域の水文化を正確に把握するためには工夫が必要です。そのため、ここでは「水資源と水文化台帳(水文化アーカイブ)」を作成し、先の水資源とあわせて、地域の水文化の洗い出しを行うこととしました。

「水資源と水文化台帳(水文化アーカイブ)」を作成することで、地域における水資源や水文化の網羅的な把握が可能になります。また、「伝承」等のように、住民個人の知識に潜むあまり知られていない水文化を抽出するとともに、「川漁」等のように、消滅しかけている水文化の詳細を、経験者から引き出しておくことが可能となります。さらに、台帳というデータベースを作ること、横断的な調査研究なども可能となります。

なお、全国の代表的な水文化の事例は、「参考2」(p-参考2-)を参照して下さい。



水文化を知り、地域の特徴や歴史を見直そう

「水資源と水文化台帳(水文化アーカイブ)」の作り方

台帳の共通フォームを作成します。

(図6では、水資源及び水文化の種類、場所、所有者・管理者、連絡先、概要、図面等、位置図、写真等の項目を含んだフォームとしています。)

行政情報をもとにヒアリング調査や現地調査を行い、情報を集約します。

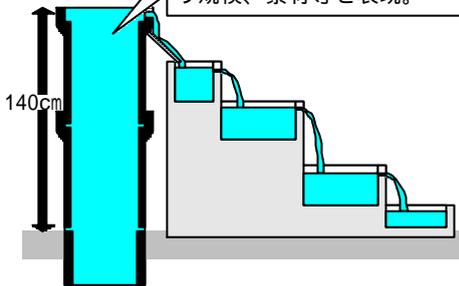
収集した情報をもとに、共通フォームを用い、水資源及び水文化の種類ごとに簡潔に記述します。特に、水文化の場合、言い伝え等による多少不正確と思われる情報であってもかまいません。(水文化の種類は、表1を参照して下さい。ただし、地域の水文化の性格等によって適宜変更して下さい。)

当該水資源や水文化の変化や出来事等があった場合には、「備考」欄に年月日とともに記述していきます。また、当該水資源や水文化の詳細な情報を入手した場合は、「備考」欄に記述の上、内容を書き換えていきます。

水資源及び水文化の種類ごとに通し番号をふり、台帳を管理します。

図6 水資源と水文化台帳（水文化アーカイブ）の例

どちらかに をつける 水資源と水文化台帳
(水文化アーカイブ)

水資源	水文化	「水文化の種類」参照	番号	井戸 - 1
水文化の種類	井戸(自噴井戸) / 水舟		「水文化の種類」毎に番号をつける	
場 所	水野町9丁目876号			
所有者・管理者	長田 アサ			
電話番号	12-3456	5W1Hに留意。言い伝え等も含めて記述。		
概 要	<p>民家の庭で自噴する井戸。深さ約40間(70m)浅い水脈である。マグネシウムとカリウム含む良質の水。米やお茶がおいしいという。一帯は地下水が豊富で、集落には井戸掘り職人がいた。昭和31年5月に移転した際、井戸の掘削を依頼した。</p> <p>水舟は4段の水槽を並べて設置し、用途によって使い分ける。上の2段は飲み物や果物を冷やしたりすることに使い、3段目を洗い物の仕上げ用、最下段を洗い物用と用途を分けている。</p>			
写 真	<p>有形文化財の場合は本体の写真、無形文化財の場合は伝承者や舞台等の写真を掲載する。</p> 			
図面等	<p>立面・平面・断面図等により規模、素材等を表現。</p> 			
位置図	<p>住宅地図等を用いできるだけ詳細に表示</p> 			
備 考	平成9年10月	長田アサ氏にヒアリングの上台帳記載		
	平成10年12月	水をみて歩く子ども会の見学コースに指定される		
	平成11年1月	×テレビに長田氏出演。		
	平成11年9月	水をみて歩く子ども会(第2回)開催。		
	平成 年 月	当該水文化に係わる情報を入手し次第追記。		

4 策定の作業

表 1 水文化の種類

大項目	水文化の種類		備考
林業	木材流送（筏等）	有形	伐り出し木材の運搬、筏流し
	炭焼き	有形	
農業	棚田	有形	
	地場産品	有形	有名産品など
輸送	川舟	有形	地域ごとに呼称が異なることが特徴
	廻船業等	無形	
漁業	伝統漁法	無形	
	養殖業	無形	
伝統工芸	手漉き和紙	無形	
	染め物	無形	
	めのう細工	無形	
	その他の伝統工芸	無形	
観光業	観光船	有形	
	釣り場	有形	
その他産業	醸造業	無形	
	製鉄業	無形	水流を利用した比重選鉱など
洗い場	洗い場	有形	
水車	水車	有形	水車の利用を含む
民話・伝承	かっぱ伝説	無形	
	弘法伝説	無形	
	滝伝説	無形	
	雨乞い伝説	無形	
	その他の民話・伝説	無形	
祭事・信仰	雨乞い	無形	
	五穀豊穡	無形	
	大漁祈願	無形	
	水恩感謝	無形	
	滝信仰	無形	
	神の交流	無形	
	楔ぎ・鎮魂	無形	
	厄除け	無形	
	海神・竜神	無形	
	精霊流し	無形	
その他の祭事・信仰	無形		
治水・利水・取水施設	水制の歴史	有形	輪中堤防、水屋、水防工法など
	水不足対策の智慧	無形	水配分の慣習など
	文化財（産業遺産）	有形	石造ダム、古堰、古水道など
	地域の歴史の象徴	無形	名士の名を冠した水道など
水資源	湧水	無形	
	ため池	有形	
	その他水資源	有形	
イベント	水にちなんだイベント	有形	湖上祭など
組織	管理組合	無形	水管理組合、水守、水当番制など
その他	水売り	無形	水販売のこと
	水にちなんだ地名	無形	
	水にちなんだ唄等	無形	

備考)「参考 2」(p-参考 2-) を参照のこと

コラム 水文化の出発点

雨水も水源。アンケートにみられた伝統的な水文化の他に、日本各地に無名の水文化はまだまだ眠っています。例えば、多くの子どもたちの水遊びは、無名の水文化の代表選手です。また、川で洗濯をする奥さんたちは、「川で洗濯すると、気持ちがいいから洗濯するのよ。」と答えてくれます。これが洗濯のモチベーションなのです。こうした感覚こそが、水文化の出発点といえましょう。

(水文化検討委員会委員長 滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員 嘉田 由紀子氏)

コラム 作業のゴール

水文化について、時間をかけてたくさんの調査を行い、調査結果を紙や電子化して保存するだけでは地域へのインパクトはありません。大切なことは、地域に対して、社会に対して、これらをどう表現していくべきか、市民の手に届く成果の形とは何か、という点、すなわちゴールについて常に考えつつ、この指針にあるひとつひとつのプロセスを経ていくことです。

また、水文化の知るためのプロセスを市民に紹介する方法として、例えば、博物館や子どもセンター、民俗資料館などに、ちょっと水の紹介コーナーを設置したり、映画やVTRというメディアを利用する方法などが考えられます。地域固有の水文化に対して、各地域が相応しい手段を選択していくことが必要です。

(水文化検討委員会委員長 滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員 嘉田 由紀子氏)

コラム 子どもたちへ伝えることは・・・

例えば、収穫祭などは、自分たちの生活に欠かすことの出来ないお祭りだからこそ大切だという実感がわきます。もし都会の人たちにこうした祭事を紹介しても、「おもしろそうだから行ってみよう！」と来訪するでしょうが、その地域の人達が昔から持っていた祭事に対する感覚とは異なったものだと思います。これから、次代に水文化を伝えていくためには、子どもたちがこうした文化に触れ、実感するための仕組みづくりが大切だと思います。

(水文化検討委員会 女優 若村 麻由美氏)

コラム 都会に眠る水文化

都会の子どもたちに、みたこともない伝統的な水文化を紹介しても、「ふうん」と頷いただけだと思います。しかし、どんな大都会にも水文化は眠っています。

また、どんな子どもでも、本来、水があれば入ってみたい、ふれてみたい、という原初的な欲求を持っています。子どもたちのこうした感性が失われる前に、また、失われないように、都会に眠る水文化を子ども達に伝えていくことも大切だと思います。(水文化検討委員会 国立環境研究所 富岡 典子氏)

4 策定の作業

地域での水文化の位置づけを整理する

で把握した水文化は、それだけでは単なるデータにすぎません。最終的には、これをもとに保存再生活動や、地域活性化を進めていくことが必要ですが、ここではまず、地域における水文化の位置づけをみていくこととします。

農業や林業、漁業など、これまで多くの地域で地域社会を支えてきた産業は、季節ごとに水の利活用方法が異なります。また、水害・雪害は毎年決まった時期に訪れ、川の表情も季節ごとに全く異なります。

このような水を巡る風物詩は、水文化にも端的に反映されています。地域と水とのかかわりの中からは醸成された水文化は「地域を映す鏡」であることは先述したとおりですが、季節という観点で水文化を捉えたとき、そこからは地域社会の生活のリズムといったものが浮かび上がってきます。

そこで、ここでは当該地域における1年間の水や水文化に係わる出来事を整理した「水の歳時記」を作成することとしました。そこからは、地域社会固有のリズム（ソシオリズム）、を感じ取ることができます。

「水の歳時記」の作り方

「水の歳時記」は、市町村の内にみられる、水に関わりのある、あらゆる出来事を季節（月）ごとに書き込んだものです。ここに書き込まれた出来事をみると、1年間の季節の移り変わりや特有の風物詩、そして人々の生活リズムを知ることができます。まず、日付が特定できる出来事を書き込んでみます。（図7では、「5月15日 アユ釣り解禁日」と書き込みました。）

日時が限定できない出来事についても、おおよその季節や月がわかる範囲で書き込みます。

（図7では、「5月～ 夏限定トロッコ列車運行」と書きました。）

このように、水にかかわりがあり、また、季節の移り変わりをあらわすような出来事を書き込んでいきます。当該市町村特有の「魚」や水に関わりのある「動物」「昆虫」「植物」等の訪れや変化なども記入します。

（図7では、キシツツジ、ヤイロチョウ、ホタル、稲穂などを書き込みました）

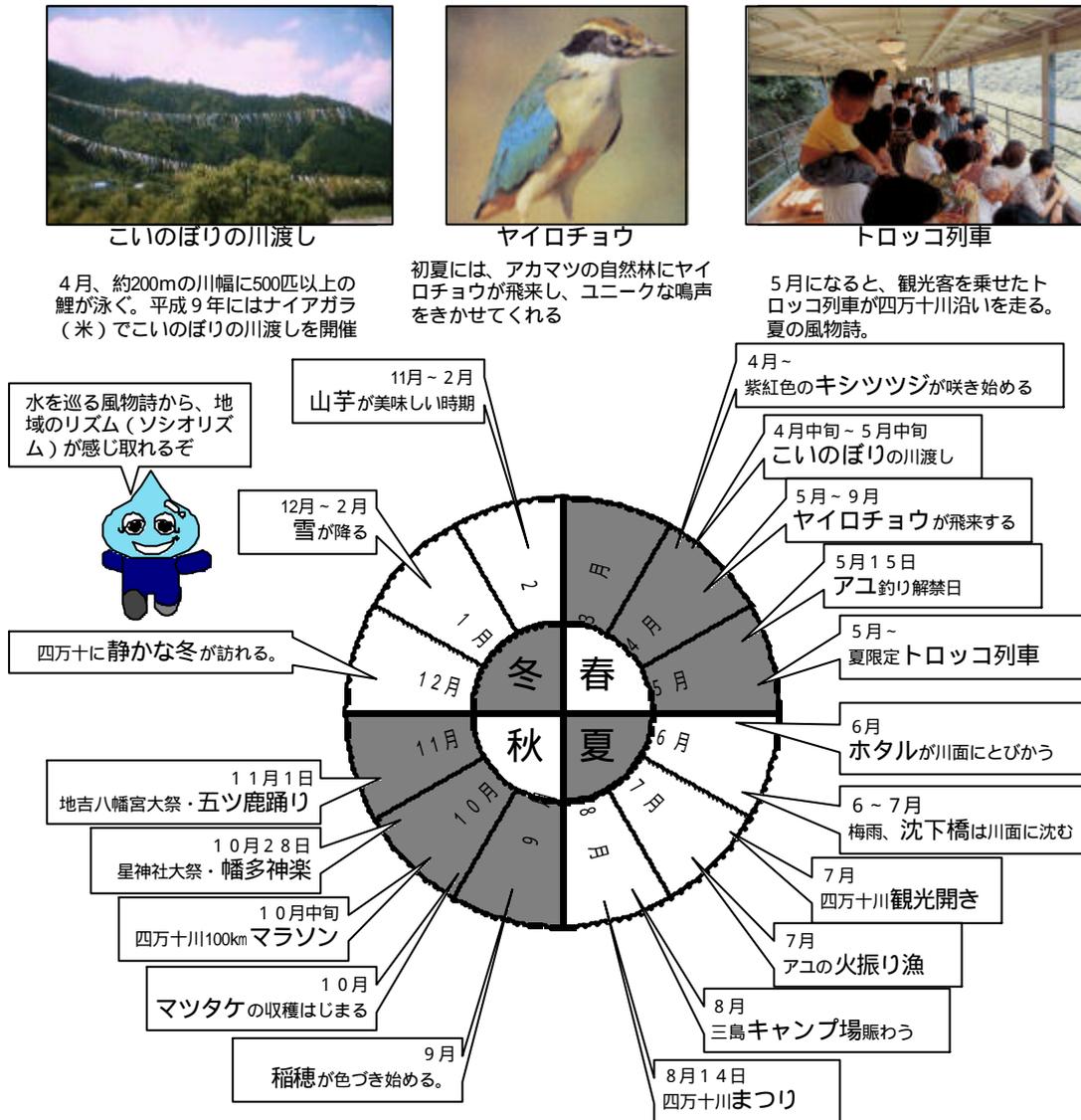
各月、各季節の出来事を書き込み終えたのち、特に特徴的な出来事については、写真を添え、写真の下にタイトルと、その出来事を詳しく紹介します。

コラム 水ガキの遊び

歳時記を作る過程で、水辺で遊ぶ子どもたちや、生活に密着したものなどどんどん盛り込んでみて下さい。季節感を感じることができます。また、真冬の12月や1月にも、水に関するイベントは少ないかもしれませんが、生活に密着した水文化はたくさんあるものです。

（水文化検討委員会委員長 滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員 嘉田 由紀子氏）

図7 水の歳時記（高知県十和村の例）



こいのぼりの川渡し

4月、約200mの川幅に500匹以上の鯉が泳ぐ。平成9年にはナイアガラ（米）でこいのぼりの川渡しを開催



ヤイロチョウ

初夏には、アカマツの自然林にヤイロチョウが飛来し、ユニークな鳴声をきかせてくれる



トロッコ列車

5月になると、観光客を乗せたトロッコ列車が四万十川沿いを走る。夏の風物詩。



沈下橋

6月の梅雨時には、雨水が四万十川に集まり海へと注ぐ。沈下橋は水に沈む。



火振り漁

7月の夜、舟の上で篝火を振る。アユは水面に映る火の帯に驚き、逃げまどい、網の中に追い込まれる。



三島キャンプ場

夏、四万十最大の中洲にある三島キャンプ場は川釣りやカヌーに最適なスポット。

資料) 高知県十和村資料等をもとに作成

4 策定の作業

水文化の形成・衰退の歴史を整理する

ここでは、で把握した水文化について、その形成や衰退（消滅）の状況を調べます。

戦後、急激な経済成長の陰で、地域の姿は大きく変わってしまいました。過疎化や高齢化、若者の流出が進み、地域活力が減退するとともに、全国一斉に道路整備等の開発が進み、個性が失われつつあることは否めません。一方、水そのものも、流量が減り、川底が上がり、汚染が目立つようになりました。さらに、河川の洪水対策を最優先に整備が進められたことなどによって、水と触れあう場や機会は減り、農業・林業・漁業など水と深く関係した産業が衰退するなど、地域と水とのかかわりも大きく変化して

います。

水文化は、地域と水とのかかわりが存立基盤であり、水文化の衰退は、地域や水の変貌と深いつながりがあります。こうしたことから、水文化の衰退状況を調べるには、水文化そのものをみているだけでは不十分で、地域や水の変化と併せてみていくことが必要です。また、水文化の形成は、何世代にもわたる長い時間を要しており、また、衰退も最近始まったものではありません。数十年、数百年という単位で形成・衰退をみる必要があります。

そこで、ここでは、「水と水文化年表」を作成することとしました。

「水と水文化年表」の作り方

年表は、原則、当該市町村を対象としますが、水や水文化を考える上で関連の深い流域圏内の他地域や、周辺地域も対象とします。

（図8では、太字が当該市町村、細字が流域圏の他地域の歴史を示しています。）

時代は少なくとも近代化の影響を受けていない江戸時代まで遡ることとします。

（図8では、水害記録の残る江戸時代初期まで遡っています。）

項目は、「地域社会の歴史」、「水（水害等、水行政・施設整備）の歴史」、「水文化の歴史」、「保存再生活動の歴史」の4つです。ただし、地域の特性、特に地域の水文化の性格等によって、項目を適宜変えていきます。

各項目ごとに、水や水文化に関連の深い史実を書き入れます。ただし、時間が特定できないものの、水や水文化を考える上で重要な事実を書き入れていきます。

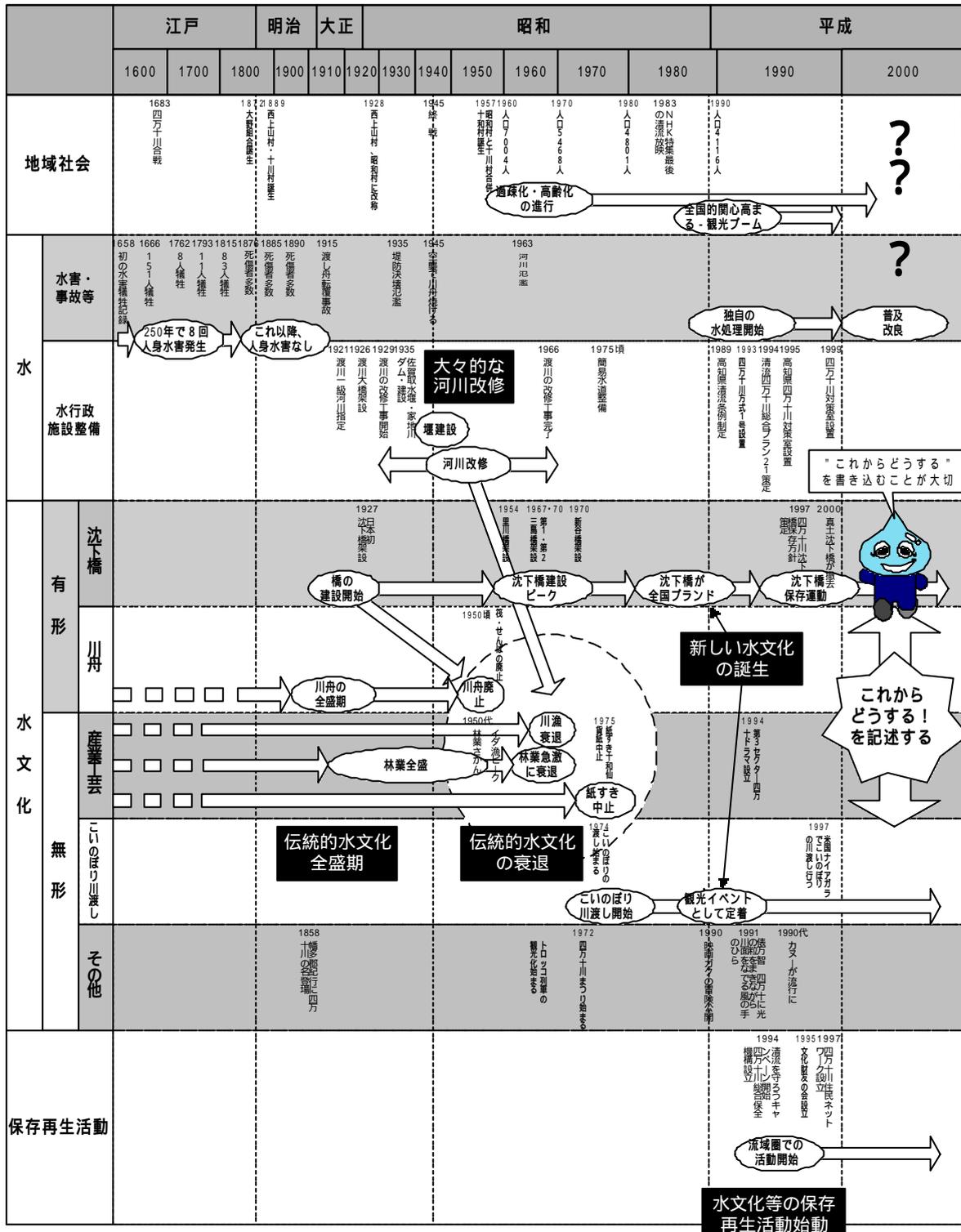
（図8では、例えば、林業が盛んな時期を「1950年代」として示しています。）

水と水文化に大きな影響を与えたトピックを抜き出したり、それぞれの関係を矢線で示し、水文化の形成・衰退や、影響などを一目でわかるようにします。

（図8では、例えば、新しい水文化として登場した沈下橋の建設時期や、林業の衰退時期、川漁の衰退時期などを「丸囲い」で示しています。）

最後に、将来的な水や水文化の保存再生活動活動方針や、水関連施設の整備の予定など、地域が「これからどうする」という方針を書き込みます。

図8 水と水文化年表（高知県十和村の例）



4 策定の作業

水文化の衰退要因を考える

「水と水文化年表」で整理された、水文化の形成と衰退（消滅）についての歴史的な流れや関係などの整理をもとに、衰退しつつある地域を代表(象徴)する水文化を取り上げ、一つ一つ衰退の要因を考えていきます。

先述したように、水文化の衰退は、地域の変化、水の変化、地域と水とのかかわりの変化が複雑にかみあって生まれるものです。ここでは、「地域」「水」「かかわり」の各変化を、水文化の衰退要因として抽出するとともに、要因間の関係について調べることで、どのような構造で水文化が衰退していったのか、を探り出していくこととします。

地域を象徴する水文化が、一体どのように衰退したのかを把握することは、あらためて当該地域の変貌を振り返ることでもあります。そしてこれは、保存再生活動等を展開する際にも大いに参考となるものです。

表2 社会と水とのかかわりの例

種類		かかわりの内容
利水系	生産	農業・林業・漁業等の産業、伝統工芸、観光など
	輸送	交通、物流・流通など
	情報	情報通信、情報交流など
治水系	治水	防災、技術革新など
生活系	生活	飲料水利用、洗濯、健康、精神安定、原風景など
	行事	祭り・イベントへの参加、信仰など

「水文化の衰退要因図」の作り方

まず、地域を象徴する水文化（の種類）を、いくつか取り上げます。

次に、「地域」「水」「かかわり」ごとに、当該水文化の衰退に影響を与えた事象を全て抽出します。（「かかわり」は、表2を参照のこと。）

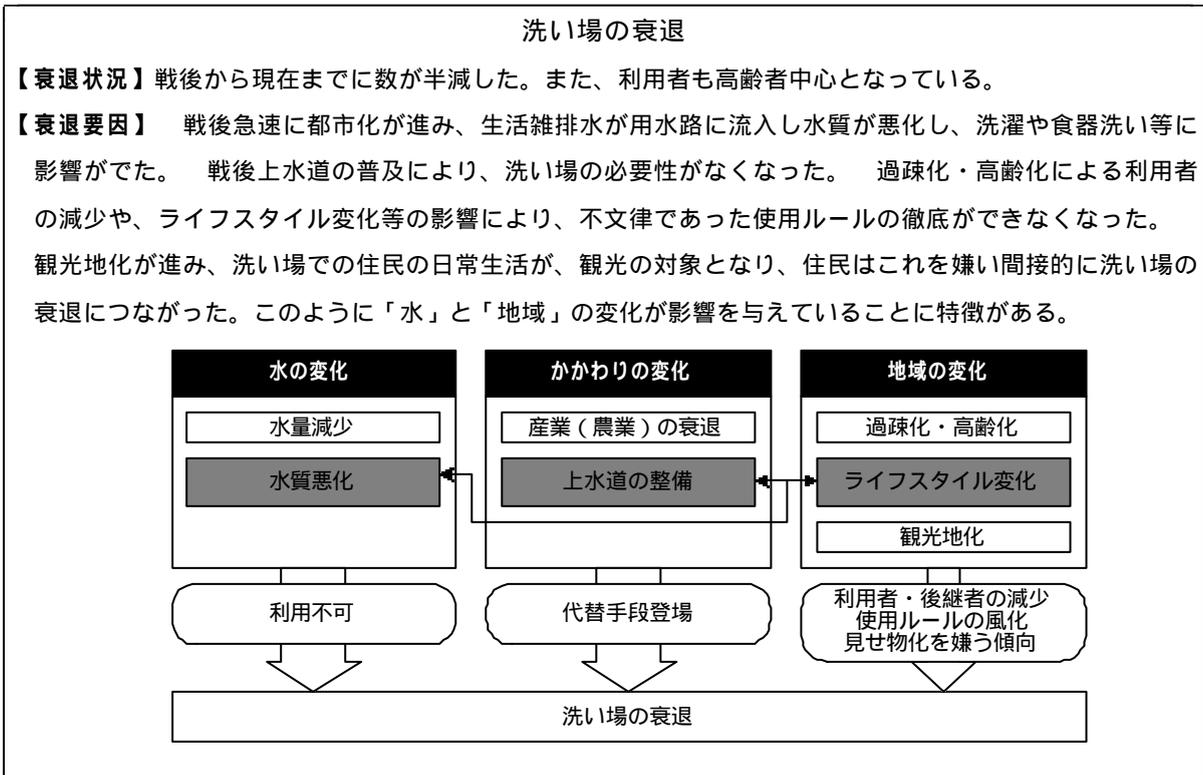
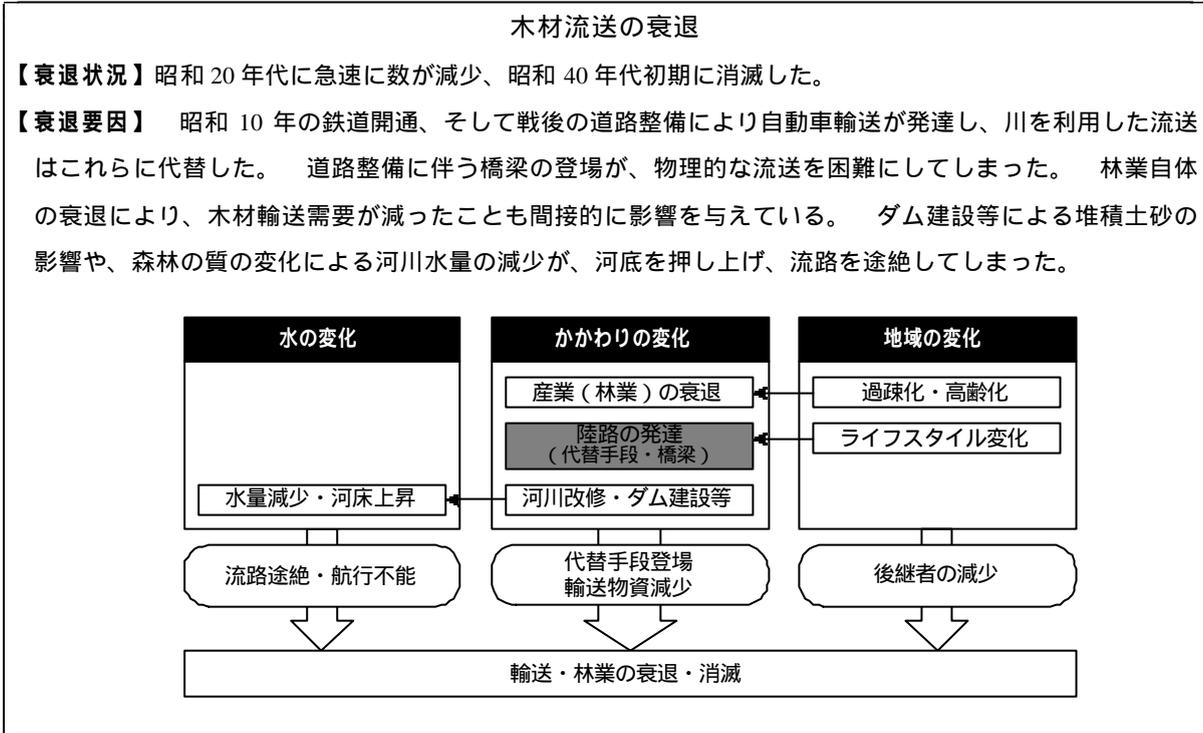
の中で、直接的要因（ヘッドイベント）を絞り込みます。また、各ヘッドイベントの影響力の大きさを矢印の大きで示します。

（図9の「木材流送」では、「流路途絶・航行不能」「代替手段登場・輸送物資減少」「後継者の減少」の3つがヘッドイベントとなります。）

直接的要因（ヘッドイベント）以外の要因について、ヘッドイベントとの関係、相互の関係を明確にします。

～ の作業をもとに、「水文化の衰退要因図」を作成します。

図9 水文化の衰退要因図の例



(3) 地域の保存再生活動を知る

これまで、「地域の水」、「地域の水文化」について様々な角度からその実態の把握に努めてきましたが、最後に、「地域の保存再生活動」の現状を把握します。全国的にみても、水や水文化の保存再生活動は活発になりつつあります。また、官と民が連携した先進事例もみられます。一方、水は循環していることから流域圏全体での取り組みが必要ですが、行政域を越えた連携が難しいことや、住民の参加が進まないなどの問題点もあげられています。

たとえ今、あまり成果を上げていなくとも、保存再生活動はいずれ地域活性化につながっていくものです。つまり、保存再生活動は、地域発展のポテンシャル、大切な資源と考えられます。そこで、当該地域の保存再生活動を様々な角度から洗い出していきます。

水や水文化の保存再生活動は、都道府県や市町村等の地方自治体や、民間団体、個人に至るまでさまざまな主体によって展開され、その規模もまちまち

です。(全国の先進的な活動事例は、「参考 3」(p-参考 24-) 参照。) また、活動分野も表 4 に示したように、環境美化から施設整備、基金管理運営まで多岐にわたっています。そのため、ここでは「水文化保存再生活動団体台帳」を作成し、当該地域における保存再生活動の洗い出しを行います。

「水文化保存再生活動団体台帳」を作成することで、地域内で展開されている保存再生活動の網羅的な把握が可能になります。また、各団体間の目的や能力、実績等を勘案し、官民連携など相互補完的な連携や、民民連携など相乗的な連携、行政域を越えた総合的な連携を図ることも可能となります。さらに、様々な問題点を洗い出す中で、当該地域共通の課題として解決を図ることが期待されます。こうして、作成した「水文化保存再生活動団体台帳」は、定期的にフォローアップしていくことが重要です。



今、展開されている保存再生活動は地域発展の資源だよ

「水文化保存再生活動団体台帳」の作り方

「水文化保存再生活動団体台帳」の共通フォームを作成します。

(表 3 では、団体名、代表者、事務所所在地、連絡先、設立時期、活動目的、メンバー数、主な活動内容、活動の問題点等の項目を含んだフォームとしています。地域特性等によって適宜変更して下さい。)

ヒアリング調査等を行い、情報を収集します。

収集した情報をもとに、共通フォームを用い、活動分野別に簡潔に記述します。特に、問題点は、代表者等の生の声をそのまま記述するように心がけます。

活動分野ごとに通し番号をふり、台帳を管理します。

表3 水文化保存再生団体台帳の例

水文化再生保存活動団体台帳		番号	環境美化 - 1
活動種類	環境美化・水質浄化運動	「活動分野」参照	
団体名	×川の清流をのこす会	「活動分野」毎に番号をつける。分野が複数ある場合には主要なものを選択。	
場所	水木町1丁目234号	代表者の写真	
代表者	水野 文子		
電話番号	123-4567		
会員数等	22名(平成11年10月現在)		
設立時期	平成9年6月3日		
所属・上位団体	なし		
活動目的	×川の清流を次世代に残すこと 活動を通じて会員相互の交流を深める		
活動実績	平成8年9月	有志による川原のゴミ拾い活動開始	
	平成9年6月	設立。会員数11名。会報誌「みず(MIZ)」を発行。	
	平成10年12月	定例勉強会を開始。第一回講師A氏。	
	平成11年7月	市内関連団体と「MIZサミット」を開催。	
	平成11年9月	ホームページ開設。	
	平成 年 月		
	平成 年 月	定期的な情報収集により適宜追加する。	
	平成 年 月		
	平成 年 月		
問題点	(平成9年) ・定例勉強会やサミット等イベント開催のノウハウ不足。 ・他団体の動向を知りたい。 (平成10年) ・会員の中で水質の対する関心が高まっている。環境美化のみならず、専門機関等との連携を図り、水質浄化運動を展開したい。		
	できるだけ代表者等の生の声を記述する。		

表4 水文化保存再生活動の分野

大項目	活動の分野	備考
民間団体	環境美化	
	水質浄化	
	水利施設等の管理運営	
	生物・生態系の保存	希少種保存、稚魚放流など
	伝統産業の保存	
	勉強会等開催	各種勉強会、講演会の開催など
	イベント開催	
	緑化・森林保全	植樹運動
	まちづくり活動	
	祭事保存	
	水文化保存	文化財の保存・記録・伝承など
	棚田保存	
	物販・産業振興	地場産品の販売促進活動など
	その他	
公的団体	環境美化	
	水質浄化	
	水利施設等の管理運営	
	河川改修等	河川敷公園の整備
	水資源関係施設整備	
	生物・生態系の保存	希少種保存、稚魚放流など
	伝統産業の保存	
	勉強会等開催	各種勉強会、講演会の開催など
	イベント開催	
	緑化・森林保全	村有林等の保存育成
	まちづくり活動	
	祭事保存	
	水文化保存	文化財の保存・記録・伝承など
	棚田保存	
	物販・産業振興	地場産品の販売促進活動など
	基金管理運営	
	広域圏内の調整	流域圏連携など
その他		

備考)「参考2(p-参考24-)」を参照のこと